

# 灯りの祭典

かやぶきの里からツナグ

11月20日  
美山かやぶきの里

日本の原風景が残る美山かやぶきの里から文化の心で絆を結び、広げていくため、「灯りの祭典」を開催しました。

竹灯りの創作などで全国を回っている「ちかけん」が手掛けた大小約820基の竹灯りが、訪れた約1500人を灯りの世界へといざないました。そこには、子どもたちをはじめ市民の皆さんが心を込めて作製した作品が、迎り一面に並べられました。

「かわいい絵やね」「ここにいると不思議な感じがするね」そう話す家族連れの姿もありました。人の温かさを感じる「灯り」に照らされた幻想的なかやぶき民家の風景に、訪れた皆さんは、忘れかけていた日本文化の素晴らしさを再発見しつつ、心温まるひと時を過ごされました。



市民の皆さんから寄せられた作品は391点。その中で審査希望のあった235点の作品を、「美山かやぶきの里保存会」などが審査しました。

自分をのびのびと表現し、見る人に元気を与える点が評価され、殿田小学校2年の仁藤陶貴さんの作品が最優秀賞に選ばれました。

3

4

5

6

7

平成19年度から始まった南丹地域の2市1町の文化振興を目指す「南丹芸術工芸教育展」と「南丹工芸文化祭」を開催しました。

美術工芸教育展では、南丹市国際交流会館において南丹地域の保育所、幼稚園、小・中・高校生や、特別支援学校の皆さんの作品などを展示しました。(1) 工芸文化祭では、江戸時代の雰囲気を残す町家で市内工芸作家の皆さんの作品展示(2)を行いました。また、南丹市国際交流会館、園部公民館では、ものづくりの技を学べる体験コーナー(3)や、竹や紙を使ったアイデア作品が並び、子どもたちが見て触って遊べる展示(4)のほか、南丹市文化協会や女性の館の皆さんをはじめ市民の皆さんによる文化活動作品展示(5)、福祉施設の皆さんによる心温まる手づくり作品の展示・販売(7)が行われました。